



波乱の相場に備える投資戦略

2021 年下半期の注目銘柄 25 選

バフェット太郎

概要

- ・FRB がテーパリングに向けて進展
- ・波乱が予想される下半期の米国株式市場
- ・米国株式市場にリセッションの兆候
- ・長期金利の下落は投資家の景気見通し悪化を示唆
- ・ハイテク株とヘルスケア株に投資妙味
- ・バフェット太郎注目銘柄 25 選
- ・PayPay 証券はなぜ個人投資家から重宝されるのか

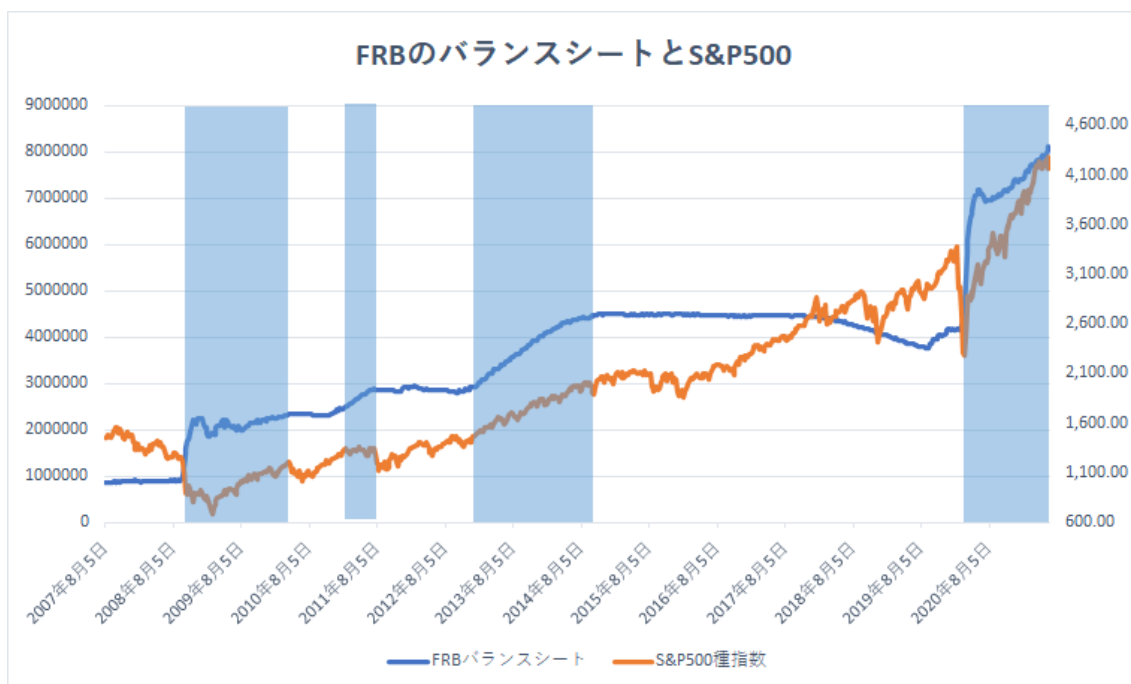
★★★

バフェット太郎です。

FRB (米連邦準備制度理事会) のパウエル議長は7月の FOMC (連邦公開市場委員会) で、早ければ年内にもテーパリング (量的緩和の段階的縮小) に着手する可能性を示唆しました。

FRB はかねてから毎月 800 億ドルの米国債と 400 億ドルの MBS (住宅ローン担保証券) を買い入れる「量的緩和」を続けていて、これによって民間経済に大量のマネーが供給されたほか、一部のマネーが株式市場に流入したことで株高の追い風になりました。

【FRB のバランスシートと S&P500 の推移】



(データ出所：<https://fred.stlouisfed.org/series/FEDFUNDS> より筆者作成)

実際、FRB のバランスシートと S&P500 の推移を眺めると、バランスシートの膨張とともに株高が加速したことがわかると思います。(※FRB は債券を買い入れることでバランスシートを膨張させてきました)

ところが、パウエル議長はかねてから『最大雇用』と『物価の安定』という二つの目標に向けて、今後さらなる著しい進展が見られるまで、現状の量的緩和を続ける」としていたのですが、7月の FOMC で「今後複数回の会合で経済情勢の進展を確認する」との政策声明を発表したのです。

つまり、これを額面通り受け取れば、「少なくとも 2～3 回の会合で経済情勢の進展を確認してからテーパリングを開始する」ということになりますから、早ければ 11 月の FOMC 以降にテーパリングが開始されることになります。

そして、テーパリングが始まればこれまでのような投資マネーの流入が期待できなくなってしまうので、株式市場にとって向かい風になるほか、それを織り込むようにして 9 月か 10 月頃に調整局面を迎える可能性があります。

★★★

また、株式市場の先行指標となる小型株や輸送株が下落し始めていることも、将来の調整局面を示唆していると言えます。

通常、株式市場というのは、大型株に先行するかたちで小型株やリスクの高い資産から売られる傾向があります。これは、大型株と比べて小型株やリスクの高い資産は流動性が低く、売りたいときに売れないリスクがあるからです。

【SPAC ディライブド ETF (SPAK)】



(出所：<https://stockcharts.com/>)

たとえば、投資家の間でブームになっていた SPAC（特別買収目的会社）銘柄にまとめて分散投資をすることができる「SPAC ディライブド ETF (SPAK)」の日足チャートを眺めると、2月にピークをつけて、その後下落基調が続いていることがわかります。

【i シェアーズ・ラッセル 2000ETF (IWM)】



(出所 : <https://stockcharts.com/>)

また、S&P500 種指数が史上最高値圏で推移する中で、米小型株にまとめて分散投資をすることができる「i シェアーズ・ラッセル 2000ETF (IWM)」は3月に 233.74 ドルのピークをつけて以降、上値の重い展開が続いています。

【ビットコイン】



(出所：<https://stockcharts.com/>)

さらに、個人投資家の間でブームになっていたビットコインも4月の6万4900ドルをピークに大暴落し、現在は2万9000～4万2000ドルの下降レクタングルを形成しており、一段と下落する可能性が高まっています。

【輸送株】



(出所：<https://stockcharts.com/>)

加えて、景気の先行指標となる「ダウ輸送株平均指数」も5月にピークをつけると、その後50日移動平均線を割り込み、高値からおよそ1割下落しています。

輸送株がピークをつけて下落に転じているということは、物流の動きが鈍くなっていることを示唆していますから、それはすなわち、将来のリセッションを予感させるものです。

このように、2月にSPAC、3月ラッセル2000ETF、4月ビットコイン、5月輸送株と、小型株やリスクの高い流動性の低い資産が次々にピークをつけていることを考えると、大型株がピークをつける日が近づいているかもしれません。

★★★

そして、足元で長期金利が下落（価格は上昇）していることから、債券投資家らが景気見通しを下方修正していると考えられます。

【長期金利（米10年債利回り）】



(出所：<https://stockcharts.com/>)

たとえば、米10年債利回りの日足チャートを眺めると、3月末に1.74%のピークをつける
 と、その後1.19%と急落（価格は急騰）していることがわかります。

投資家らが安全資産である長期債を買い向かっているということは、足元のインフレ加速
 は一時的だと考えているほか、景気見通しに悲観的になっていることを示唆していますか
 ら、米国株式市場は景気見通しの悪化から、利上げは後ズレすることが予想されます。

つまり、金融相場の長期化が予想されるということです。

そして、長期金利の下落はPERなどの株式のバリュエーションを押し上げることが期待で
 きますから、高PER株の多いハイテク株にとって追い風になります。

また、業績が景気に左右されにくいヘルスケア株も比較的堅調な展開が予想されますから、
 2021年下半期のポートフォリオは景気循環株である資本財株や素材株の比率を減らす一方
 で、ハイテク株やヘルスケア株の比率を増やしたいです。

そこで、バフェット太郎が注目している銘柄をいくつか紹介します。

【2021 年下半期のバフェット太郎注目銘柄 25 選】

AAPL	アップル
	世界有数のデジタル機器開発会社
ADBE	アドビ・システムズ
	画像処理やPDF編集ソフトを提供
AMZN	アマゾン・ドットコム
	世界最大のネット小売
CRM	セールスフォース・ドットコム
	企業向け顧客関係管理ソフトウェアを提供
CRWD	クラウドストライクHD
	インターネット・セキュリティ・ソリューションを提供
DOCU	ドキュサイン
	電子署名ソリューションを提供
FB	フェイスブック
	世界最大のSNS企業
GOOGL	アルファベット
	インターネット検索の世界首位
MSFT	マイクロソフト
	世界有数のソフトウェア開発会社
OKTA	オクタ
	ID管理クラウドサービスを企業向けに提供
PANW	パロアルト・ネットワークス
	総合サイバーセキュリティ会社
PTON	ペロトン・インタラクティブ
	フィットネスの新興企業
PYPL	ペイパル
	電子決済サービスを提供
PINS	ピンタレスト
	画像共有サービスを提供
ROKU	ロク
	ネットTVの配信機器やソフトウェアを提供
SHOP	ショッピファイ
	Eコマースプラットフォームを提供
SQ	スクエア
	モバイル決済サービスを提供
TWTR	ツイッター
	ソーシャル・ネット大手
U	ユニティ
	3Dコンテンツの開発ソフト「Unity」を展開
ZM	ズーム・ビデオ・コミュニケーションズ
	企業向けビデオ会議システムを提供
ABBV	アッヴィ
	バイオ製薬大手で2013年にアボット・ラボラトリーズからスピンオフ
AMGN	アムジェン
	バイオ医薬品メーカー大手
BMY	ブリistol・マイヤーズ・スクイブ
	バイオ製薬大手
GILD	吉利アド・サイエンシズ
	世界有数のバイオ医薬品メーカー
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン
	総合ヘルスケア企業大手

さて、これらの銘柄に分散投資をする場合、米国株は1株単位で購入することができますから、日本株と比べて分散投資がしやすいです。

しかし、それでも20~30銘柄に分散投資をしようと思うと百万円以上の資金が必要になるほか、値がさ株（株価が高い株）ほどポートフォリオに占める割合が大きくなってしまいますから、個人投資家に「個別株による分散投資」はハードルが高いと言えます。

たとえば、25銘柄に分散投資をしようと考えても資金が100万円しかなければ、アマゾン・ドットコム（約40万円）とマイクロソフト（約30万円）だけでポートフォリオの70%を占めてしまうので、適切に分散されたポートフォリオを構築することができないのです。

もちろん、少額の資金しか用意できなくても、ETFや投資信託を利用することで幅広い銘柄に分散投資をすることはできます。

しかし、個人投資家の中には「自分で選んだ銘柄にできるだけ資金を振り向けたい」と考えている人も少なくないと思います。

そこで、資金の少ない個人投資家ほどPayPay証券を利用するのは理に合っていると思います。なぜなら、PayPay証券は米国株を1株から購入するのではなくて、1000円から買い付けることができるからです。

なぜこのようなことが可能なのかというと、それはPayPay証券があらかじめ購入した1株を、複数の個人投資家に対して小分けにして配っているからです。そのため、「自分で厳選した銘柄に分散投資をしたい」と考えている個人投資家にとってPayPay証券は重宝されると思います。

グッドラック。

《ライターによる宣言》

私、バフェット太郎は本調査資料に表明された見解が、対象企業と証券に対する私個人の見解を正確に反映していることをここに表明します。また、私は本調査資料で特定の見解を表明することに対する直接的または間接的な報酬は、過去、現在共に得ておらず、将来においても得ないことを証明します。

《利益相反に関する開示事項》

● 銘柄選定はバフェット太郎独自の判断で行っており、PayPay 証券株式会社を含む第三者からの銘柄の指定は一切受けておりません。

● 執筆担当者、バフェット太郎と本資料の対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。

金融商品取引法に基づく表示事項

■ 本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：PayPay 証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 2883 号

加入協会：日本証券業協会

指定紛争解決機関：特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

■ リスク・手数料相当額等について

証券取引は、株価(価格)の変動等、為替相場の変動等、または発行者等の信用状況の悪化や、その国の政治的・経済的・社会的な環境の変化のために元本損失が生じることがあります。

お取引にあたっては、「契約締結前交付書面」等を必ずご覧いただき、

「リスク・手数料相当額等 (<https://www.paypay-sec.co.jp/service/cost/cost.html>)」について内容を十分ご理解のうえ、ご自身の判断と責任によりお取引ください。

免責事項等

● 本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的とし、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定はお客様ご自身の判断で行ってください。

● 本資料は、信頼できると考えられる情報源に基づいて作成されたものですが、基にした情報や見解の正確性、完全性、適時性などを保証するものではありません。本資料に記載された内容は、資料作成日におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

● 本資料に基づき行った投資の結果、何らかの損害が発生した場合でも、理由の如何を問わず、PayPay 証券株式会社及びバフェット太郎は一切の責任を負いません。

● 電子的または機械的な方法、目的の如何を問わず、無断で本資料の一部または全部の複製、転載、転送等を行わないでください。